

長野県林業総合センタ - 塩尻市片丘 5739
 Nagano-prefectural Forestry Research Center
 TEL 0263-52-0600 FAX 0263-51-1311

魯桃桜(ロトウザクラ)

キ-ワ-ド:ロトウザクラ、モモ

県立長野図書館に植えられていることで知られている「ロトウザクラ」は、信州に春の訪れを告げる桜として親しまれています。現在では長野地方気象台にも植えられ、季節暦の一つになっている「ロトウザクラ」とはいったいどんな桜なのでしょう？

ロトウザクラとは

サクラのつぼみがまだまだ堅い3月下旬、淡いピンク色の花びらを持つロトウザクラが開花します。開花した花を見る限り、色や形はサクラによく似ています。しかし、夏になって実が付き始めると小さなモモの実が出来ています。葉の形や実の形、花の付き方をよく見てみるとまさにモモだといえます。



ロトウザクラを漢字で書くと「魯桃桜」となっており、桃と桜の中間として古くから考えられてきたことがわかります。では、ロトウザクラの正体は何でしょうか？ロトウザクラの歴史から追ってみました。

ロトウザクラの歴史

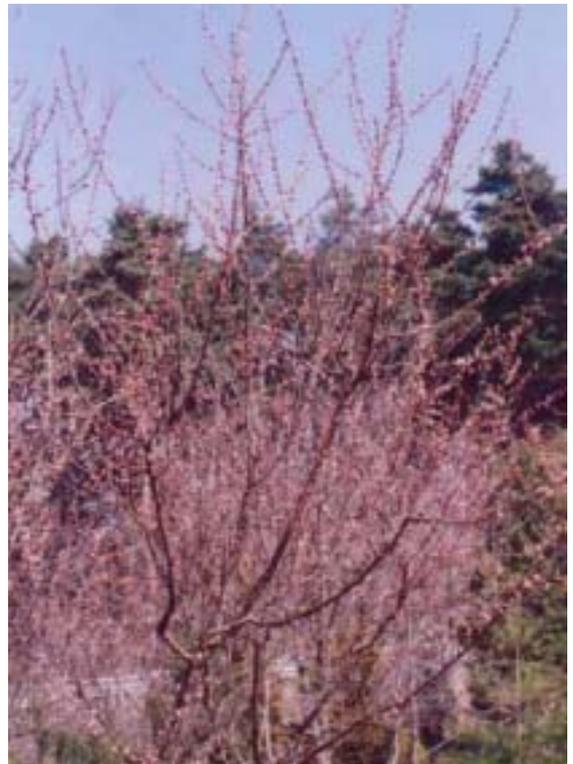
昭和34年に発行された「県立長野図書館三十年史」によると、「シベリア原産で、埼玉県の安行で栽培されたものである。」と書かれています。その後、平成6年に発行された「魯桃桜と図書館（県立長野図書館発行）」によると、ロトウザクラは佐久市桜井尋常高等小学校に植えられたもので、埼玉県安行では接ぎ木を行っただけとのことがわかりました。

そこで、佐久に植えられていたロトウザクラについて調べてみたところ、日露戦争の凱旋記念に苗木を持ってきたとの逸話が残されているだけで、原産地も不明とのことでした。しかし、ロトウザクラの名はこの逸話からロシアの「ロ」（ロシアのロには露と魯の二通りがある）を当てて名付けられたもののようです。

県立長野図書館に植えられているロトウザクラは、昭和37年に落合照雄氏及び久保田秀夫氏によりモモ亜属のノモモまたはハヤザキモモと判断されましたが、疑問が残りました。

というのも、ノモモやハヤザキモモの原産地は旧満州で、北緯45度を超えるようなシベリアには存在しないことが問題になりました。それでも日露戦争について調べてみると、日本側が主に戦場としたのはシベリアではなく中国東北部から北満州だったようです。こうなると、この地域から持ち込まれて佐久に植えられたとの推測も出てきました。このほか、ノモモが「魯の国」とされている中国中央部に多いことから、ここから来たのでは？という説も残されており、原産地が定かではなく、結局明確な答えは出ていません。

また残念なことに、ロトウザクラと命名された元の木は、小学校の移転合併に伴ってゲートボール場になったため、現在は失われてしまいました。加えて、佐久市から接ぎ木をした第一世代のロトウザクラも県立長野図書館の移転およびその後の風雪で全滅してしまいました。



長野県下のロトウザクラ

このように数多くの逸話を持つロトウザクラは、モモの一種であるということ以外には、長野県にやってきた経過が定かではなく、その由来はよくわかっていません。

それでも、昭和8年に長野市の県立長野図書館に植えられて以来、春真っ先に花を咲かせる「サクラ」として長野市民を始め県下に広く定着するまでになり、昭和30年代からは、接ぎ木や実生で苗木の増殖が積極的に行われるようになりました。

1994年に県立長野図書館が調べたところ、県立長野図書館を起源として接ぎ木・実生により育てられた苗木は、県内の各地に100本程度は植えられていることがわかりました。



魯桃桜は、名前の由来は定かでないにせよ、日露戦争が関係しているなど長い歴史をくぐり抜けてきた歴史の生き証人となっています。現在は、その原産地や種類について明確になっていませんが、人間のDNA鑑定が可能になってきたことを考えると、近い将来DNA鑑定によってロトウザクラのたどってきた道がわかる時がくるかもしれません。

担当者 育林部 小山泰弘

参考文献 魯桃桜と図書館 県立長野図書館発行 (1994)
県立図書館三十年史 県立長野図書館発行 (1959)